

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【宮城県】

学校名【仙台市立上野山小学校】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者 (学年・人数)	仙台市立上野山小学校 交流会(1) 第5学年 77名 , 特別支援学級 1名 交流会(2) 第3学年 89名 , 特別支援学級 3名 第6学年 88名 , 特別支援学級 2名 交流会(3) 第1学年 91名 , 特別支援学級 1名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 次の5つのうちから選択し○をつけてください【複数選択可】 ① 教科名 (道徳科・体育科) ② 行事名 ( ) ③ その他 (学級活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	○障害のあるスポーツ選手の方との交流やそのスポーツの体験を通して、自分とは異なる他者について理解し、お互いを認め合う気持ちの育成を図る(交流会の目標)。 ○「心のバリアフリー」の実践を通して、相手の気持ちを考えて行動しようとする「心のユニバーサルデザイン」が発揮できる児童の育成を図る(校内研究の目標)。
5 取組内容	1 障害や障害のある方について理解する学習 <事前学習(学活)> ・交流会の前に、障害やパラリンピックの種目などについて理解するための学習を行った。1年生では、ゴールボールのルールなどを伝えた。5年生では、テレビの特集番組(「真央が行く!」NHK)を見ながら、障害のあるアスリートについての理解を深めた。3、6年生は2回目の交流なので、昨年度を振り返り、質問を考えた。

## 2 体験的な学習

### <交流会>

(1) 齋藤由紀子さんとの交流会(体育科) [11月29日]  
5学年

- やり投げでパラリンピックを目指している齋藤選手の講話と実演、ジャベボールを使った体験を行った。
- 講話では、夢をかなえるために今頑張っていることや大切なことを話していただいた。
- 体験では、短縄を使って、やり投げの仕方を教えていただいた。また、ジャベボール投げでやり投げの疑似体験を行った。



【講話の様子】



【実演の様子】



【体験の様子】

(2) 宮城MAXとの交流会(道徳科) [12月18日]  
3, 6学年

- 昨年度の交流会で、車いすバスケットボールを体験させていただいたので、今回はその体験を踏まえて、日本代表岩佐義明監督と萩野真世選手から「人との出会い」について講話していただいた。
- 講話では、自分と車いすバスケットとの出会いや監督や仲間との出会い、それらに感謝しているという内容の話をしていただいた。
- 質問を受け付ける時間を設けていただいたところ、率直な質問を投げ掛けていた。



【講話の様子】

(3) 川嶋悠太さんとの交流会(体育科) [12月19日]  
1学年

- ・ ゴールボール日本代表の川島選手から講話をいただくとともに、ゴールボールの体験を行った。
- ・ 講話では、自分の気持ちをしっかり相手に伝えることやあきらめずにできるようになるまで頑張ることの大切さを話していただいた。
- ・ 体験では、3人1チームで、アイシェードを付けて、専用のボールを使ってゲームをした。ボールから聞こえてくる鈴の音を頼りに自分の立っている位置から移動したり、相手ゴール目掛けてボールを転がしたりした。



【講話の様子】



【体験の様子】

3 自分の気持ちや行動を考える学習

<事後学習(学活)> 全学年

- ・ 授業後の振り返りで、自分の気持ちや行動を記録するために、「心のパスポート(自分の考えを文章に書いたり絵に描いたりする)」というワークシートを活用した。
- ・ 御礼状を書くことを通して、感謝の気持ちを伝えた。

6 主な成果

○交流会の成果

- ・ 障害のあるスポーツ選手の話を知ったり、そのスポーツを体験したりすることを通して、相手を理解し、良さを認め合えるようになってきた。

○児童の感想

- ・ 耳を澄ましないとキャッチができない。言葉は大切だと思った。
- ・ 目が不自由なのに、ゴールボールができるのがすごいと思った。
- ・ 健常者も障害者も立場は同じだと思った。
- ・ 自分と立場の違う人について理解することを心掛けていきたいと思った。

○校内研究の成果

- ・ 振り返りに「心のパスポート」を活用し、自分を見つめさせた。下の感想からも、相手の気持ちを考えて行動しようとする意識が高まったと言える。

○児童の感想

- ・ 困っている友達がいたら、声を掛けて助けたいという気持ちになった。
- ・ 誰にでも優しくしようと思った。
- ・ 障害があることを後悔しておらず、マイナスよりプラス

	な考えをされていて、見習おうと思った。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度からの継続で関わる学年には、体験ではなく、より理解を深められるように、学校でテーマを設定して講話を中心とした活動内容を依頼した。</li> <li>・ 交流会の振り返りで、自分の気持ちや行動を記録するために、「心のパスポート」というワークシートを作成し、記入させた。また、事前事後学習など、授業ごとに記録を累積していくことで、その変容を見取った。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当日の交流会の中で、体験活動の際などに、教職員の補助が必要な場合がある。また、講師の都合で予定通り進まない場合がある。臨機応変に対応する必要がある。</li> <li>・ 交流会はそれぞれの学年で年 1 回程度なので、事前事後の学習が重要である。</li> <li>・ 講師との連絡調整に時間が掛かる場合があるので、早期に計画を立て、見通しを持って取り組む必要がある。</li> <li>・ 当日記入していただく書類があるので、その時間も確保するのが難しい。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校では、相手の気持ちを考えて行動するという目標を達成するために、昨年度から障害のある方やアスリートとの交流会を設定してきた。実際に関わりを持ち、その場で感じたことや気付いたことを直接相手に伝えたり、質問したりすることで、障害者理解が深まり、他者理解のきっかけになったと考えられる。ただ、他者理解の深まりという点では、1 年間継続した学びの場を設定することは十分ではなかった。そこで、来年度以降は、目標である他者理解を更に深めるために、今年度までの交流会で学んだことを生かして、学年ごとに自己・他者理解に関する年間指導計画を作成し、一年間見通しを持って学習に取り組ませたいと考えている。そうすることで、連続的に切れることなく、相手の気持ちを考えた行動の育成を図る授業を実践することができると考えている。また、障害のない人との交流(他者理解)の活動も実践し、より心のバリアフリーの意識・実践力を高めていきたい。</li> <li>・ 交流を終えた児童が「家で「ゴールボール」で検索して映像を見た。」「家でお家の人にゴールボールのやり方を教えました。」と話すなど、オリンピック・パラリンピックに向けて意識が高まってきていることが分かった。今後は、「I'm POSSIBLE」等の教材を活用し、更に意識を高めていきたいと考えている。</li> </ul>